

<ソニー・ライフケア×東京大学大学院の産学連携活動>

ソニー・ライフケアは、来るべき超高齢化社会にむけ、効率的かつ高品質な介護サービス企画の研究を継続的に進めています。この度、産学連携活動の一環として、東京大学大学院による介護と技術をテーマにした研究に協力いたしました。

■ソナーレ石神井の現場見学とインタビュー

2019年12月6日、東京大学大学院工学系研究科の「技術ロードマッピング」講座を受講する学生の皆さん4名が、ソナーレ石神井を訪れました。「技術ロードマッピング」講座とは、将来の社会的な課題や市場のニーズ、技術の将来予測に基づき、技術開発の方向性をロードマップの形で表現することによって、経営視点から技術戦略を立案する基礎力を養うことを目的としたもの。学生の皆さんは、ソニー・ライフケアを研究対象企業として取り上げ、有料老人ホームを実際に訪問して学んだことや、現在置かれている環境・課題認識の調査、将来の技術予測などを踏まえ、当社の技術ロードマップを完成させていくこととなります。



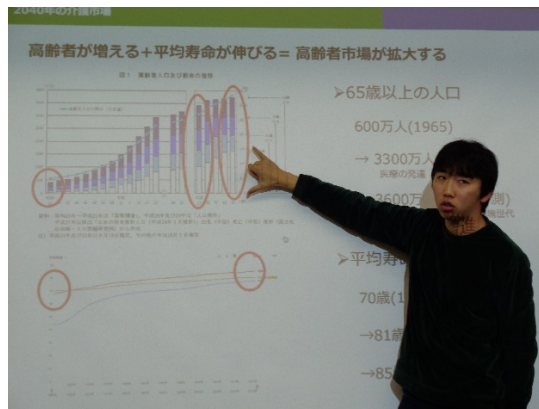
インタビューは、実際の介護現場を見学しながら行われました。学生の皆さんからは、「技術の進歩により生活の不便が減り介護施設の需要が減るのではないか」、「いま介護の現場で活かされている技術や期待する技術は？」など、途切れることなく質問があがりました。

当社社長の出井からは、業界全体で人手不足であることや、老人ホームで働く従業員の負担を軽減する技術を求めていることに加えて、ソニー・ライフケアグループではご入居者の方に自分自身の価値観、人生観に沿った時間を過ごしていただけるようホームでの生活の中で個々のご入居者にむけたライフプランの提案に力をいれていることなど、自社の目指す姿についての話がありました。

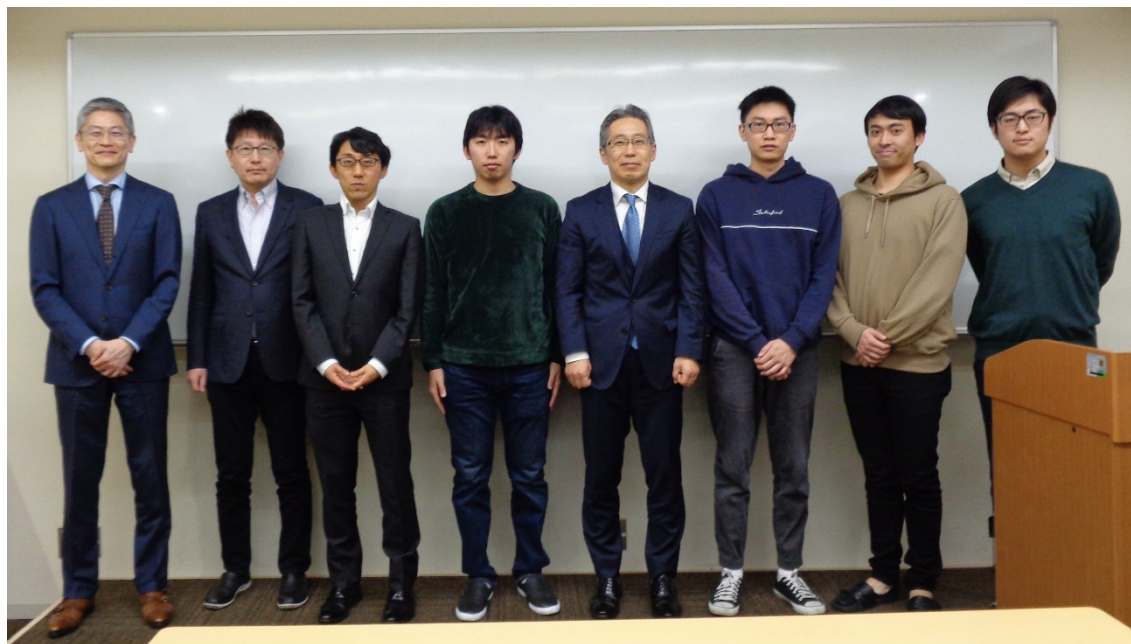
■学生の皆さんによるソニー・ライフケアのロードマップ発表！

ソナーレ石神井の訪問から約2カ月後の2020年1月29日、東京大学大学院の教室で、出井社長が見守る中、いよいよ学生さんたちのロードマップの発表が行われました。学生の皆さんが考えたロードマップのテーマは「介護団地の設立」。ソニー・ライフケアグループの「“Life Focus”～「本当の長生き」とは何かを追求します～」という事業コンセプトを実践するために、要介護者の方々と健康な家族の方々が一緒に暮らせる空間を創出するとと

もに、優れた技術の導入により高度かつ効率化されたライフプランを提案することで、他社との差異化を図るというアイデアが提案されました。



学生の皆さんの一生懸命なプレゼンに、最後まで真剣に耳を傾けた出井社長は、「介護業界の現状や抱える問題について多角的に分析されており参考になった。今回の取り組みで知ってもらった介護現場の状況や視点を引き続き持ち続け、今後の技術開発でも是非活かしていただきたい」と、学生の皆さんの将来の活躍に期待を渗ませていました。



東京大学大学院工学系研究科の学生の皆さんとソニー・ライフケア出井社長(右から4人目)と片原アシスタントマネジャー(左から3人目)
一番左は同講座を担当されている中島先生、左から2人目はソニーフィナンシャルベンチャーズ取締役の中村氏

ソニー・ライフケアグループは、“Life Focus”が実現できるホーム創りのため、経営理念に掲げている「原点からの発想」に基づき、業界、業種を超えたコラボレーションを積極的に模索し、今後とも高品質な介護サービスの実現に向けた研究、実践を続けてまいります。